



### ETV特集

#### 青春は戦争の消耗品なのか ～敗戦少年・大林宣彦が描く“戦争”～(仮)

放送予定：NHK Eテレ/9月2日(土)午後11:00～午前0:00  
※再放送 9月7日(木)午前0:00～1:00<水曜深夜>



末期ガンを宣告されながら映画作りに執念を燃やす映画作家・大林宣彦(79)が今回の映画で伝えたいメッセージが『戦争』。華麗でポップな映像世界を描く大林映画にあって、生々しい「戦争」はあえて避けてきたテーマ。しかし戦争を知っている世代の生き残りとしての責務を果たすため、命がけて「今」に問いかける。撮影現場では、連日「戦争」の直接的なメッセージがシナリオに書き加えられていく。「迂闊だったでは済まされない。やるべきことは全部やる。」映画人生の集大成、大林監督の死闘を描く。

つづき  
製作スタッフの  
つづき

戦争って何だろう?編集室で、素材を見て、大林監督に出会って、自分に問い続けていますが、答えは出てきません。ただ、監督が2017年の今、戦争についての映画を命がけて撮ろうとすることであったり、自らの戦争体験の中で「戦争賛成反対」とかではなく「戦争の恐ろしさ」を語るということ。そのメッセージをこれから先も考え続けていかなきゃいけない。そう感じました。

アシスタントディレクター 米澤拓磨



### ETV特集

#### 阿久悠 歌を妖怪にした男

～いきものがかり 水野良樹が“人と時代”を解く～(仮)

放送予定：NHK Eテレ/9月23日(土)午後11:00～午前0:00 (変更の可能性あり)  
※再放送 9月28日(木)午前0:00～1:00<水曜深夜>



つづき  
製作スタッフの  
つづき

いきものがかりは今、放牧宣言中。作詞作曲活動に忙しいリーダー水野さん。阿久悠さんのご長男深田太郎さん、沢田研二にTOKIOを書き新風を吹かせた糸井重里さん、新世代作詞家いしわたり淳治さん、ヒット仕掛け人秋元康さん等に、まるで悩み相談するように聞いて聞いて聞きまくる。真っ直ぐさが眩しい!

プロデューサー 本木敦子

「時代を呑み込み、妖怪のように巨大化していくのが“歌謡曲”だ」と阿久悠は言った。しかし、その歌は徐々にヒットチャートから遠のいていく。その盛衰はなぜか。「時代を食っていた男が、時代に食われてしまったからだ」と水野良樹は考える。ソングライターの水野は自らの楽曲を「大衆歌」と呼び、阿久悠が時代を描き、社会を動かそうとした試みとその壮絶な後姿に強く惹かれている。彼が阿久悠の日記、未発表作品を読み込みながら作り手達を訪ね、これからの「歌」を探る。そして、新曲誕生?!



### コズミックフロント☆NEXT

#### ヒューマンコンピューター

～NASAリケジョたちの活躍秘話～(仮)

放送予定：NHK BSプレミアム/  
9月7日(木)午後10:00～11:00

宇宙開発に欠かせないコンピューター、1950年代は「計算者」、人を指す言葉だった!誰もが知るアメリカ宇宙開発の功績は、「コンピューター」と呼ばれていた女性たちが鍵だった。まだ働く女性が珍しかった時代、人種や性別、年齢の壁を乗り越え彼女たちはどうやって宇宙開発を仕事にし、何を成し遂げたのか?これまで隠されていた米宇宙史の裏側に迫る!



写真：キャサリン・ジョンソン (1918-)



## 世界はTokyoをめざす

未来に向かって走れ！ エチオピア・男子マラソン（仮）

放送予定：NHK BS1/9月10日（日）午後8：00～8：49

※再放送 9月24日（日）午前0：00～0：49

リオ五輪・男子マラソン銀メダリストのエチオピア人、フェイス・リレサ選手。ゴールの際、リレサの民族を弾圧する母国政府に対して、“命がけの”抗議ポーズをとって物議を醸した。そしてリオ五輪後、米国に亡命。今でもゴールの度に抗議ポーズを続けている。母国の弾圧を止めるために、そして、再び祖国を背負って東京五輪に出るために、走り続けるリレサを追った。



## Special DJの秘密兵器「企画室」とは！？

DJが誇る「企画室」。これまで様々な作品を世に送り出してきた企画室の檀乃歩也さんに聞きました。

### Q 企画室とは？

思いつきやアイデアを具体的な形にして売り込む番組作りの設計図となる「企画」を戦略的に扱うチームで、15年ほど前からやっています。企画室を巣立った後にディレクターやプロデューサーとして活躍するパターンも。

### Q 企画室にはどんな人が向いている？

自分が「面白い！」と思うことを誰かに伝えたい、というマインドを持っていれば誰でも面白い企画が書けます。あとは「ひねくれ者」かつ「常識人」であること。ネタをそのままではなく、自分だけのものの方で料理すること。

### Q 企画を通した後は？

めでたく企画が通った後は、後方支援に回るパターンと、「構成」として最後まで関わるパターンがあります。企画を書く段階で自分の中では番組のイメージはほぼ出来上がっているのですが、そのままの番組だとちょっと面白くありません。現場スタッフの粘りやハプニングで、想像を超えた発見してくれるのがドキュメンタリーの魅力です。自分が「観たい！」と思う番組を作ってもらうなんて贅沢な仕事ですね。



### 最近の受賞作

\*アメリカ国際フィルム・ビデオ祭 アート部門1位、ゴールド・カメラ賞  
BS1スペシャル「もうひとつのショパンコンクール ～ピアノ調律師たちの闘い～」(NHK BS1)

\*第33回 ATP 賞テレビグランプリ 情報・バラエティ部門奨励賞  
「没後20年ドキュメンタリードラマ おかしな男～渥美清・寅さん夜明け前～」(NHK BSP) など

### 第13回

ディレクター 児玉知仁

## 【連載】リレーコラム『ドキュメンタリーは〇〇である』

～ドキュメンタリージャパンのスタッフが紡ぐ『ドキュメンタリー』と『ワタシ』の関係～



## ドキュメンタリーは「公開ラブレター」である。

誰かを否定する取材はしない。どんな悪党であれ、惚れた気持ちを綴りたい。厄介なのは、当人に告白のではなく、第三者に伝えなければならないこと。級友に見つかり、黒板に貼り出されたラブレターは無残な結末を迎える。だから放映後は、何だかフラれた気分になるけれど、「いつか必ず届く！」と信じて、前を向くのだ。

### バトンを渡す相手

⇒ 山崎 裕さん

勝手に「師匠」と仰いでいます。  
ひと言では収まらない？

### 制作中の番組



その他、多岐に渡る作品を制作中です！  
詳細はドキュメンタリージャパンのHPまで。

## 編集後記

私事ですが今月号完成の後、産休に入ります。番組作りはちょっとお休みとなりますがDJ Magazineの仕事は続ける予定です。MailやSkype、Dropboxを駆使し、しばらくは自宅からドキュメンタリージャパンの番組を応援していきたいと思えます！今月号で印象的だったのは「ラブレター」という言葉。リレーコラムだけでなく、企画室の檀さんのインタビュー中にも「番組タイトルは視聴者へのラブレター」という言葉がありました。タイトルがはっきりしている企画は良い番組になることが多いそうです。愛の溢れるドキュメンタリーの世界、また戻ってこられる日を楽しみにしています。(S.N)

Design by HARIMA koutarou

株式会社ドキュメンタリージャパン

HP: <http://www.documentaryjapan.com>

〒107-0052 東京都港区赤坂8丁目12番20号 和晃ビル1F TEL:03-5570-3551 FAX:03-5570-3550